

今月の農家さん

「おうみんち」とともに
元気な毎日

守山市新庄町
もりた りょういち
森田 良一さん (81才)



定年退職をきっかけとして本格的に野菜農家を始めた森田さん。

最初は、地域の特産品であるシュンギクが中心でしたが、11年前のおうみんちオープンに合わせて、様々な野菜の栽培に挑戦し、今ではダイコンやハクサイ、ピーマンなど20品目を出荷しています。

森田さんの日課は、毎朝おうみんちの搬入開始時間まで、出荷者仲間と様々な会話を楽しむこと。

自ら「おうみんちサロン」と呼ぶこのひとは、丹精込めて育てた野菜がお客さんに喜んでもらえる事と並ぶ森田さんの生きがいです。

「大きな声であいさつを交わし、野菜の育て方や出来栄えを話題に知識を高め合う事が、毎日の元気につながっています」と森田さんは笑顔で話します。

最後に森田さんは「いつまでも元気に野菜を作り、おうみんちとともに頑張っていきたいです」と意欲を燃やしました。

営農情報

◆米検査の結果について

当JA全体での令和元年産米の検査結果は、左表の通り中晩生品種を除いて、昨年に続き一等比率が大きく下がっています。

品 種 名	一等比率	
	元年産米	30年産米(参考)
コシヒカリ	38.97%	33.60%
キヌヒカリ	16.77%	26.59%
秋の詩	69.77%	49.02%
日本晴	77.15%	22.66%
みずかがみ	58.85%	78.28%

(令和元年10月29日現在)

品質低下の原因は、幼穂形成期から出穂期の日照不足、登熟期の高温が考えられます。

稲の生育や登熟などは、天候に左右されてしまいますが、引き続き下記の対策を総合的に実施して、品質向上を目指しましょう。

◆乗用農機具の泥について

- ①土づくりの徹底
- ②遅植え
- ③疎植と細植え
- ④適正施肥(基肥・穂肥など)
- ⑤中干しや早期落水防止など、水管理の徹底
- ⑥適期防除

この季節、稲わらのすき込みや耕耘などを行うため、圃場(ほらば)でトラクターを使う機会も多くなりますが、道路に出る前に車体やタイヤについた泥は落とせていますか？道路に落ちた泥は美観を損ねるだけでなく、往來の妨げになり、事故の原因にもなりかねません。あらかじめ圃場内で泥を落とすだけでなく、道路に泥を落とした場合は、速やかに清掃しましょう。

